



“巨大空港建設の時代は終わった!” 強制執行絶対反対! 市東さんの農地を守りぬこう!

成田市栗山公園に 490 人

10月3日、私たちは成田市栗山公園で全国総決起集会を開催しました。全国から集まった490人の仲間と「巨大空港建設の時代は終わった。危機に立つ空港会社に市東さんの農地を奪い生活を破壊する権利など一切ない。政治と社会を根本から変えよう」の宣言(2面)を確認しました。

成田空港会社(NAA)による不当な農地取り上げ攻撃と闘う市東孝雄さんは「最高裁決定が出たが、NAAのやり方を許せない気持ちに変わりはない。『うそはつかない、あきらめない』を信念に今後も天神峰で畑を耕す」と決意を語りました。

集会後、市街地をデモ行進。「空港機能強化反対」「建設費用を医療や生活に回せ」「新たな農地取り上げを許さないぞ」の訴えに住民から多くの共感の声が寄せられました。



①関西から駆けつけた川口真由美さんが熱唱
②栗山公園から市内を一周するデモに出発

10/20新やぐら裁判控訴審・第一回

10月20日(水) 午前11時30分 日比谷公園霞門集合 正午 東京高裁包囲デモ
午後2時開廷 東京高裁大法廷

10/22第3誘導路裁判

10月22日(金) 午前10時30分 千葉地裁601号法廷

集会宣言

56年目の三里塚闘争は、大きな時代の変化の中で歴史的勝利の展望を切り開いた。成田空港は、昨年来の新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延（まんえん）を契機に経営破綻の危機に追い込まれている。空港会社は「中長期的には需要は回復する」からと機能強化にしがみつき、第3滑走路建設を進めているが、コロナ問題は中長期的に続くのである。人の移動が大幅に減少し、航空会社の破綻と再編で需要回復の見込みなどない。世界的観光バブルと観光立国政策は完全に破綻し、巨大空港建設の時代は終わったのだ。

農民から農地を奪い、自然を破壊して金儲けを優先してきた結果が成田空港の破綻だ。われわれの「何があっても農地を守り農業を続ける」という決意と実践が強制執行を粉碎し、空港会社を追い詰めている。空港機能強化反対に立ち上がる地域住民と連帯し、今こそ農地死守・空港廃港へたたかおう！

最高裁は6月8日請求異議裁判の「上告棄却」決定で市東さんの農地強奪強制執行にお墨付きを与えた。だが、倒産の危機に立つ空港会社に、市東さんの農地を奪い生活を破壊する権利など一切ない。絶対に強制執行を許してはならない。現地での強制執行実力阻止態勢をより強固に、「農地死守・実力闘争」で迎え撃とう！

資本主義は全世界で格差と貧困、過労死を拡大し、放射能の垂れ流し、化石燃料の大量消費などで地球を破壊しながら、軍拡・戦争でさらなる延命をはかろうとしている。成田の軍事空港化を粉碎し、今こそ資本主義を終わらせる闘いに立ち上がろう。全世界で闘いの先頭に立つ青年・学生、動労千葉・関西地区生コン支部など闘う労働組合、放射能汚染水放出と闘う福島、辺野古新基地建設と闘う沖縄と共に、政治と社会を根本から変えよう！

2021年10月3日

芝山町の会場貸出拒否問題について朝日新聞が掲載

芝山町による集会会場貸し出し拒否の取り消しを求める審査請求に関する記事が9月28日付朝日新聞に掲載されました。空港機能強化反対の声を押しつぶす言論弾圧は断じて認められません。今月中にも審理員の意見書がまとめられる予定です。今後ともご支援・ご注目をお願いします。

施設使用申請

「却下は違憲」

芝山町に空港反対派

成田空港の機能強化に反対する集会に、芝山町が芝山文化センターを使わせなかったのは「表現の自由の重大な侵害だ」などとして、三里塚芝山連合空港反対同盟北原派が、町に対して、施設の使用承諾申請却下の処分取り消しを求めて審査請求している。

センターの使用承認申請を提出したが、「2日前にイベントがあり、消毒のために会場は貸せない」と断られた。その後、4月開催に変更して申請し直したが、町は「センターの管理運営に不安が生じるため」として却下したという。同派は3月、処分取り消しを求めて審査請求した。

同派はこの日の陳述後、「芝山町で集会を開催できないことは集会・結社の自由などに反して違憲だ」と主張。一方、町は「審査請求中のため、申請却下の理由を含め、コメントできない」としている。

政府目標 2020年訪日客 4000万人→実際は 400万人

観光バブルも崩壊

2030年6千万人は夢物語
今こそ機能強化の白紙撤回を

●今年（1～8月）の訪日客はわずか17万人

政府は「観光立国」と称して、インバウンド（訪日外国人客）を2020年4000万人、2030年に6000万人とする目標を掲げてきました。

空港機能強化もまた、こうした右肩上がりの航空需要予測をもとに進められてきました。

ところが、昨年来の新型コロナウイルスの感染拡大を契機に訪日客数は激減。五輪関係者が多数来日したにもかかわらず、今年1～8月までの訪日客数は17万3300人。コロナの影響が出始めた昨年3月の1カ月間の訪日客数19万人にすら届いていません。

●根拠なき幻想にしがみつくと観光庁と国交省

にもかかわらず、観光庁は「2030年の目標達成を目指す」と強弁し、先日就任したばかりの斉藤鉄夫国土交通大臣は「訪日外国人6000万人の達成のため、首都圏空港機能強化は必要不可欠」と述べています。

国は目標達成の根拠を示すことなく幻想にしがみつき、成田においては第3滑走路建設、B滑走路の延伸、運用時間の深夜早朝への延長を強行しようというのです。断じて認められません。

●バブルは崩壊、今こそ機能強化白紙撤回を

そもそも観光に携わっている人ですら、コロナ前はバブルだったと認識し、混雑や騒音などの「観光公害」とも言われる訪日外国人客数の激増に警鐘を鳴らしてきたのです。

観光社会学が専門の中井治郎龍谷大非常勤講師は「コロナ前は観光バブルとも言える状況」「これ以上の受け入れは無理、というのが観光関係者の実感だった」（10月13日付東京新聞）と指摘。星野リゾートの代表も「（政府目標は）アグレッシブ過ぎる。今の体制のまま達成することが現実的か、それがいいことかも含めて考える必要がある」（10月7日付日経新聞）と述べています。

2030年訪日客6千万人は夢物語に過ぎません。機能強化を推進し、矛盾をさらに拡大する国と空港会社に私たち地域住民の未来をゆだねるわけにはいきません。今こそ機能強化白紙撤回の声を共に上げましょう。

地域住民の声

B滑走路の北側への延伸で騒音が激しくなる茨城県稲敷市の住民から。地域がますます廃れ、成田の軍事利用も進むのではないかとの声が寄せられました。

◆機能強化で発着回数を増やして何に使うのか。軍事利用が心配だ。

稲敷市 会社員

今回の成田空港機能強化策で茨城側にB滑走路が1千mも延伸されたら地域がさらに廃（すた）れるのではないかと心配している。

5年前の国勢調査では1200戸あったのに今は800戸に減っている。私は、今ですら航空機の騒音がうるさいから空港会社に何十回も陳情に行ったけど、騒音コンターの外側だといって相手にしてくれなかった。

しかし、B滑走路が1千m延伸さ

れることでコンターの隣接地域に入ったので、内窓を認めさせることができた。

今年の7月からは深夜11時以降には稲敷市柴崎の上空での旋回をやらないと約束させた。

成田空港の年間発着回数を50万回にするというが、空港へのアクセスはどうするのか。成田への新幹線計画もなくなった。一方で羽田へはJRが3方向から直結し、地下鉄も乗り入れるようにすると新聞にも出ていた。羽田の比重が高まっている。

成田の発着回数を増やして一体何に使うと言うのか。滑走路を今の2本から1本増やすだけなのに敷地面積はこれまでの2倍にするというのもおかしい話だ。

先日、「成田空港から郷土とくらしを守る会」の人たちが自衛隊が成田空港を使用したことに対して、国交省に「成田の軍事使用をするな」と申し入れ行動をしたとの記事を見た。成田がますます軍事使用されるようになるのではないかと心配している。

10・31天神峰カフェにご参加を

10月31日正午、成田市天神峰の市東さん宅離れで天神峰カフェをオープンします。天気が良ければ畑に立つのが気持ちの良い季節です。ぜひご参加下さい。先月のカフェでは参加者と畑の看板のリニューアル作業を行いました（写真右）。ご連絡は太郎良（たろうら）陽一 090(1855)8189まで。



市東さんの耕す農地に建つ看板